

=私たちの活動 4つの柱=  
\*制度化と指導員の身分保障  
\*専門性と仕事の確立  
\*父母と共に学童保育運動の発展  
\*全国の指導員との団結と連帯

建交労愛知学童保育支部

# 支部ニュース

2019. 4. 1 5.  
NO. 2 9 7  
全日本建設交運一般労働組合  
愛知学童保育支部 発行  
名古屋市 中川区 宮脇町2-99-2

## なぜ、組合活動休暇なのか その2

### アルバイトでの 仕事からスタート

愛知における「学童保育づくり運動」は、名古屋市内でスタートしました。

1960年代後半から池内、千種台、星ヶ丘、志賀、春岡、瓦町、戸田、仲田が誕生し、指導員は連絡を取り合い、「名古屋学童保育指導員の会」を結成しました。夜に集まって保育や生活の悩み等を交流してき

「バイト」でスタートした指導員の仕事の始まりでした。

### 指導員として 働き続けたい

そんな状況の中で、保育の実践交流をすすめる、深め合うなかで、学童保育の価値と仕事の専門性を感じて、「指導員として働き続けたい。そのためにも、生活と身分保障を！」という要求が次第に高まりました。そして「労働組合を作ろう」という声となり、1976年2月11日に、「指導

員の会」を発展的に解消して、「名古屋学童保育指導員労働組合」を結成しました。

結成当時に組合の方針は、  
①「子どもたちが本当に生き生きする」指導内容を作りあげていく。  
②「指導員を専門職として」確立させていく。  
③そのことと、国・県・市に向けて、「制度化運動」を統一的にすすめるでした。

### 労働組合の結成、 保護者も歓迎

「父母会」「連絡協議会」も、指導員がボランティア感覚ではなく、労働者意識を持って保育すること、労働組合の誕生を歓迎してくれました。

当時は、ほとんどが20代の組合員で、若い仲間の中では、指導内容の向上や蓄積に力点が置かれて実践交流を行っていました。

生活や労働条件、身分保障の要求は、「父母会」や「運営委員会」で、自主的に午前中から勤務して、実績を訴えていく中で理解が得られ、次第に改善がすすんでいきました。

む仲間の「職業病」問題が発生しました。二つ目は、児童館指導員が産休中の仲間へ名古屋市から「解雇通告」が行われました。この二つの大きな問題が発生して、労働組合の真価が問われる事態になりました。問題解決のために、山本が担当となり、自治体関連を含む労働組合に相談に出かけました。

そこで出会った「建設一般協議会（建設一般と全日自労）」から強力な援助や指導を得て、「組合交渉権」を発揮して、「職業病」の認定を勝ち取ることが出来ました。

国・県・自治体に向けて運動は、「指導員は、父母会活動組織の一員として活動する」として、「愛知学童保育連絡協議会（県連協）」に結集して活動して行きました。

しかし、県連協の役員や組合内部からも、「労働組合の役割は？」の声が次第に広がっていきま

### 組合の力で課題解決

「私たちは、不安定雇用労働者であり、不安定雇用労働者を組織する労働組合に入ろう」と決議して、1980年2月に、「建設一般協議会」に加盟しました。

（副委員長 山本 隆夫）

1979年に、二つの大きな課題に直面しました。一つ目は、自律神経失調症と腰痛症で苦し

### 「特殊健診の受診の呼びかけ」

特殊健康診断は、支部で「職業病認定闘争」を闘い、仕事で子どもをおんぶしたり抱っこする関わりや正座する状態が多い事などから、腰背痛や頸腕障害などを発症するリスクが高く、その予防や発症を発見するために、支部と名古屋市連協、南医療生協病院や名大の小野医師が連携して立ち上げたものです。

しかし、特殊健康診断の受診を認めてもらう職場がないので、なかなか受診がすすまない現状があります。その必要性が組合員の中にも浸透していない面もあります。今回支部財政から3名受診してもらい、その必要性を改めて考えていきたいと思

また、5月15日（水）9：30～（労働会館にて）、「健康を支える会」の主催で、「学童保育での体の使い方、守り方」という学習会を開催します。特殊健康診断の受診と合わせて、職場の研修の位置付けで参加出来るように事業所に申し入れを行いましょ

初めて支部執行員になり、右も左も分からないまま中央行動に参加させていただきました。

午後からは、グループに分かれて各議員さんのところへ要請書を持って、学童保育の実情や基準緩和について、また指定管理者制度について要望を伝えに行きました。

私が回ったところは、全て秘書対応でしたが、親身になって話しを聞いていただける方もいれば、あまり耳を傾けていただけない方もいたので、もっと「学童保育」について伝えるために、私自身もっと勉強していきたいと思います。頑張ります!!!

東分会 近藤 結女

\*中央行動の報告は、紙面の都合上、4人のみの掲載となりました。ご容赦ください。

今回で3回目の中央行動です。初めて参加した時は、なにも分からず、うまく話すことも伝えることもできませんでした。

今回、参加して、愛知の学童保育の課題、全国の学童保育の課題など、少しずつ学べているような気がします。学童保育の制度において、1つずつ確実にクリアしてしいけるよう、全国の仲間と共にすすめていきたいと思いました。

中村分会 川原 由理

午前の春闘決起集会では、トラック部会や高齢者部会など、同じように改善を求める方の声が聞けました。職種は違いますが、ある意味同じ労働者として協力していくべきなんだなと感じました。

午後の議員要請では、議員に会えなかったものの、秘書の方が最後まで話しを聞いてくれました。中には、「大臣に言っておくよ」「学童保育のことは、少しずつ気にしている」「今は虐待の方に力を入れている」と言っていたので、少しずつフォーカスをこちらに向けていただけたらなと思いました。いずれも秘書の方に伝えたので、直接議員さんへ伝えたいと思いました。 緑分会 佐藤聖也

今回中央行動に参加して、全国にこんなにも同じような考えを持つ人がいることを実感して驚いた。

要請行動で議員さんの部屋を回って、今回は全員秘書対応ではあったが、秘書によって対応の仕方に違いがあり、熱心に話しを聞いてくれるだけでも、話しをして良かったと感じることが出来た。

中央行動を今後も機会があれば参加していきたいと感じた。ただ、議員に要請するだけでなく、全国の指導員と話しも出来て、他県の現状を知ったり、意見交流も出来るので、とても有意義なものだと思う。

瑞穂南分会 武田隆郁

## 福岡県、春日市の施設見学

全国学童保育研究会が終了してから、後泊した仲間は、翌日春日分会の仲間の案内で、ログハウス調に建設された施設を見学させていただきました。

春日市の施設を見学して感じた事は、見た瞬間から木のぬくもり、入った時から木の香りの良さがして、それだけでも生活の場だと感じる事ができました。



施設の充実ぶりは、何一つ取っても名古屋の物とは違い、ガスオーブンが有ったり、食器乾燥機が有ったりと、驚くばかりでした。

しかし、施設に対する要望については、学童保育として意見を言える立場には無いという事で、細々とした点について指導員の意見は反映されないとの事でした。

それでも、子どもたちが、ゴロゴロしたり、ホットドリンクを飲んでくつろぐスペースがあったりと、子どもたちが家庭的な空間の中で生活する姿が思い描ける施設だなと思いました。

(亀井 副委員長)